

定例研究会のご案内

(社) 東洋音楽学会関西支部第 185 回定例研究会

と き : 1998年2月14日(土) ①14:00~16:30

と ころ : 大阪音楽大学K号館(水川記念館) K201号教室

〒561 豊中市名神口1-4-1 ☎06-865-0545 (K号館事務室)

交 通 : 阪急宝塚線「庄内」駅下車、庄内本校よりスクールバスを利用

☛下記の案内図および4ページの連絡バス時刻表を参照して下さい。

14:00~15:15 連続講座 「伝承」を考える—その5

文字譜と旋律型

半澤 恵美子

コメンテーター 山田 智恵子

15:30~16:45 連続講座 「伝承」を考える—その6

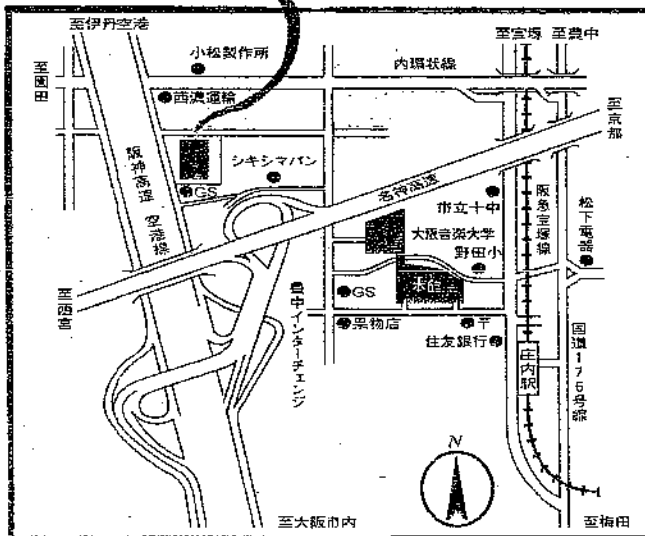
大阪だんじり囃子の伝承

丸田 弘治

演奏 正覚寺祭保存会

コメンテーター 網干 毅

大阪音楽大学K号館



例会終了後、関西支部役員会が開催されますので、理事・地区委員・参事の方々はよろしくご参集下さいますよう、お願い申し上げます。場所・時間につきましては別途ご案内いたします。

定例研究会記録

>第185回定例研究会特別講演報告<

Between Written Culture and Oral Culture

アムノン シロアー (ヘブライ大学人文学部教授)

コメンティーター 屋山 久美子

国立民族学博物館の招聘で2度目の来日をしたヘブライ大学のシロアー教授は、アラブの音楽文献学、オリエント・ユダヤとアラブの音楽伝統を軸に精力的な研究活動を行ってきた音楽学者である。

講演は、例会の連続講座「伝承を考える」に連動した題目が与えられていたが、筆者を含め、多くの人がアラブあるいはユダヤ音楽での伝承のあり方、伝承の場における「書かれたもの」と「口承で伝えられたもの」をめぐる音楽学上の様々な問題が提示されるだろうと想像したのではないかと。しかし、シロアー教授は、中世のアラブ・ユダヤ両文献学での豊富な経験をふまえ、二つの文化の中で、**Change**という概念がどう応用されるか、ということを示した。

まず、アラブ・イスラム、ユダヤ文化共に、歴史上、一方で「理論書・哲学書」が多く書かれ、音楽に関わる過去の情報を得ることができるが、他方では音楽の伝承自体は口頭で行われ、記譜法はなく、過去の音楽が、いかに鳴り響いたかを知ることができない文化と位置づける。また、これまでの民族音楽学が「書かれない」文化の研究が中心で、歴史研究がなされなかったし、この二つの文化に有効な歴史上の**Change**の問題を“**Adaptive Strategy**”という用語でまとめた。時間の関係で、この**Strategy**のうち、イスラム文化での応用例のみ提示された。ベドウィンという砂漠の民族の音楽伝統がイスラム支配の拡大とともに新音楽を形成していく過程で、支配、被支配両側に受け入れられる地域性が包含されて行くが、ここで関わった**Strategy**がコーランという統一する要因 **Arabization**, 旅をする知識人と地方様式との間で起こった**Selectiveness**, 娯楽や楽しみを禁止するイスラムとの間で関わる**Religious Dimension**である。

最後に、社会学者グリーンバウムの理論を応用し、20世紀近代にアラブ文化圏で起こったヘテロジェニックな**Change**とそれ以前のイスラム世界での**Change**が質的に大きく違っていると結んだが、これは西洋文化圏以外での「近代化」の問題という点で、我々日本の昨今話題の近代批判とも関わってくる。この点で、シロアー教授、例会参加者全員で活発な議論が展開できるとよかったかと感じるが、シロアー教授の次々に続く事例に時間の方が許さないという状況になった。いずれにせよ、日本ではまだまだ、話題となる機会が少ない西アジアの音楽文化について聴き知る機会が持たされたことは貴重だったと思う。(屋山久美子)

定例研究会予告

>第187回定例研究会「連続講座」 要旨<

伝承を考える—その5「文字譜と旋律型」

半澤 恵美子

浄瑠璃型三味線音楽の古正本には、多くの場合、文字譜と呼ばれることばが記されている。

その種類は、①「ユリ」、「三重」、「ハル」など、旋律の動きを表すもの、②「平家」、「弄齋節」、「江戸節」など、先行芸能や他流派の旋律の引用を示すもの、③「カグラ」、「伊勢音頭」、「祭文」な

ど、流行歌謡や大道芸、季節の祝祭芸能等、巷間芸能の旋律の引用を示すものがある。これら文字譜は、一般的に旋律型を規定していると考えられているが、実際に文字譜の部分を実演から抜き出して採譜し、それぞれを比較した文字譜研究はほとんど行われていないのが現状である。東洋音楽研究第47号第2分冊の町田佳声「三味線声曲における旋律型の研究」は、流派を限らず広いジャンルから①の旋律の動きを表す文字譜を実際の音で示した、代表的な文字譜研究であるが、②、③については行われておらず、これ以後この種の研究はほとんど進められていない。

私は巷間芸能を研究する立場から、すでに廃れている芸能の音楽的要素を調査する目的で文字譜と旋律型の考察を進めている。今回の発表では、調査中の一中節、河東節を中心に、巷間芸能名の文字譜について、

一、芸能名の文字譜の種類と数、

二、実際に採譜する場合の諸問題。たとえば文字譜が規定する範囲（長さ）の問題、演奏から採譜する際の問題等、

三、採譜した結果と考察、

の三点を中心に上げたい。

伝承を考える—その6「大阪だんじり囃子の伝承」

丸田 弘治

大阪市平野区の杭全神社夏祭には、二つの系統の太鼓音楽が伝承されている。一つは神社の夏祭としての「布団太鼓」であり、もう一つは氏子の夏祭としての「だんじり囃子」である。

布団太鼓には曳行時の奏法、および旅所への到着時の奏法として2種のリズムパターンがある。いずれも口頭伝承により伝えられているが、2つとも固定したリズムであり、氏子や個人による伝承の差はない。

一方、だんじり囃子については9つの氏子中（市・馬場・野堂東・野堂南・野堂北・背戸口・流・西脇・泥堂）がそれぞれの囃子を口頭により伝えている。囃子には名称をもつ数多くのリズムパターンがあり、しかもそれらには氏子中や個人による伝承の差がある。

今回の発表では泥堂町に伝承されてきた囃子に関して、伝承者の一人としての立場から、囃子のリズムが、祭りの進行状況、および祭り自体の通時的変化とどう関わるか、そして同じ町の伝承であっても個人によりどのような違いを生じうるのか、これらの点について、実際の演奏の記述譜により、明らかにしていきたい。とりわけ、囃子のパターンの一つである「道中」のリズム構造とダイナミックに焦点を当てて述べていく。このことからだんじり囃子のルーツにも迫りたい。

なお、発表時には発表者自身の実演と、正覚寺祭保存会による泥堂町の囃子の実演を交えて説明していく予定である。

研究活動二コース

研究会の紹介：楽家録を読む会

『楽家録』は、江戸初期に成立した前五十冊の楽書で、その後の雅楽のあり方に大きな影響を与えた書物です。現代の雅楽の演奏にしても、この書物からの影響を抜きにして語ることはできません。「楽家録を読む会」は、この楽書を正確に少しずつ読むことを主な目的として、会合を重ねています。現在は「第三十五巻 声調考正」を輪読中です。読み下しとともに、楽書の周辺をとりまく諸問題についての小発表も行っています。また、楽書輪読以外に、古楽譜を解説する作業も行っており、現在『催馬楽略譜』にとりくんでいます。

雅楽に関心のある方、あるいは日本の古典音楽に関心のある方の参加を歓迎します。集まりは、毎月一回、第二金曜日午後5時～9時。会場は大阪上本町のアウィーナ大阪（なにわ会館）です。お問い合わせは、関西支部の峯雅彦、志村哲男、馬淵卯三郎、藤田隆則まで。

音大阪音楽大学K号館連絡バス時刻表

庄内学舎↔K号館(大阪音楽大学マイクロバス)

	9	10	11	12	1	2	3	4
庄内学舎発	00・20	00・40	10	00・30	00・20・50	25	10・40	15・55
K号館発	15・55	35	5・55	25・55	15・45	15	05	

K号館行(阪急バス「上津島」下車)

	11	12	1	2	3	4	5	6	7
庄内駅前発㉔㉕	13・43	13・43	13・43	13・43	13・43	13・43	13・43	13・43	13・43
江坂駅前発㉖㉗	00・30	00・30	00・30	00・30	00・30	00・30	00・30	00・30	00・30
江坂駅前発㉘							09・39	09・39	
岡町駅前発㉙	53	32	25	02・42	42	15・58	21・50	33・57	48
園田駅前発㉚	18	18	18	18	18	18・48			18
大阪駅前発㉛	30	00・30	30	00・30	30	00・30	30	00・30	30

K号館発(阪急バス)

	11	12	1	2	3	4	5	6	7
江坂駅前行㉜	25・55	25・55	25・55	25・55	25・55	25・55	23・53	23・53	25・55
江坂駅前行㉝						59	31	01・31	
岡町駅前行㉞	31	09	04・39	19	19・54	34・59	29	09・34	24
園田駅前行㉟	59	59	59	59	59	29			01
大阪駅前行㊱	15	15・45	15	15・45	15	15・45	13	13・43	15

関西支部からのお知らせ

入会申込方法・住所等の変更について 入会ご希望の方は、郵便切手80円を同封し、下記の学会本部新事務所に入会申込用紙・入会案内をご請求下さい。なお入会には推薦者1名(本学会員)を必要とします。住所等の変更につきましても同事務所までお知らせ下さい。

〒110-0001 東京都台東区谷中 5-9-25 第2八光ハウス201号 (社) 東洋音楽学会

☎ 03-3823-5173 FAX 03-3823-5174 ㊮ LDT01776@niftyserve.or.jp

振替 東京 00160-6-56723

定例研究会研究発表申込方法・支部だよりについて 定例研究会での発表等を常時募集しております。ただし申込多数の場合など、必ずしもご希望に添えないこともありますので、あらかじめご了承下さい。申込の際は、発表の種別(連続講座、研究発表、資料紹介、研究演奏、調査報告など)、題目、使用機器、発表希望日、所属、氏名、連絡先を明記の上、下記宛にご送付下さい。また支部だよりへのご意見や自由な投稿もお待ちしています。

〒582-0026 大阪府柏原市旭ヶ丘4丁目698番1 大阪教育大学 澤田篤子

☎ & FAX 0729-78-3703 ㊮ fwid5652@mb.infoweb.or.jp

編集室より

本号より、関西支部会員のグループあるいは個人による研究活動を紹介する「研究活動ニュース」のコーナーを設けました。会員の皆様への情報提供(宣伝?)の場として活用していただきたく、会員の皆様の寄稿をお待ちしております。また4月以降の例会開催についてのアイデアやご意見も歓迎いたします。